

角 川

漢和中辭典

樹友忍
茂岩
塚野
貝藤小
編



漢和中辭典

貝塚茂樹 編
藤野岩友
小野忍

角川漢和中辞典

昭和三十四年四月一日初版発行 昭和二十九年一月二十五日四十版発行 定価 一〇〇〇円	編者 貝塚茂樹 小野岩友樹 角川源義忍 印刷者 中内佐光 製本者 鈴木俊一 東京都新宿区西五軒町三二 東京都文京区古川町一四	発行所 株式会社 角川書店 東京都千代田区富士見町二の七 振替口座 東京一九五二〇八 電話九段 〇一一一(代表)
---	---	---

落丁・乱丁本はお取替え致します

©

整版 読印刷・印刷 読美術・製本 鈴木製本

【一所不住】いっしょに「へ国」一か所に長く
とどまらず、居所を定めずに旅をすること。行
脚僧など、居る境遇。
【一所懸命】いっしょに「へ国」①一か所の領地を命
がけで守る意。②必死になつて事をする意。
【一步一喘】いっしょに「へ国」一歩あるいては一息つ
く。険しい山路などを行くこと。
【一炊一夢】いっしょに「へ国」飯が煮えるくらい
の短い時間に見た夢。この世の栄華のはかない
たと。唐の盧仝が邯鄲の宿舎で呂尚
という仙人の夢を借りて一眠する間に
五十年の栄華の夢を見たが、さめてみれば、た
しかかの黄梁がまだ煮えきつていず、人生の
はかないことを悟つた故事。(枕中記) ②黄
梁一炊に「へ国」邯鄲の夢。
【一知半解】いっしょに「へ国」じゅうぶんわかつていない
こと。なまじり。
【一栄一落】いっしょに「へ国」栄えたり衰えたりす
る。(曹原道真・詩)「是春秋」
【一殺多生】いっしょに「へ国」人を殺すこと
ひとり殺して多くの人を生かす。(仏)
【一真(眞)法界】いっしょに「へ国」絶対無差別の
宇宙の真実のすがた。
【一紙半銭(錢)】いっしょに「へ国」一枚の紙と半文の
せ。値うがけないものたえ。
【一唱三嘆(歎)】いっしょに「へ国」ひとりが歌
うと、三人がこれに合唱する意で、じょうずな
詩文をほめること。②一唱三嘆いっしょに
【一張一弛】いっしょに「へ国」弛緩器などの
弦をはつたりのめたりすること。②弛緩をはり
つめたりゆるめたりすること。③人民をほどよく
働かせたり休息させたりしよ政治を行なう
【一得一失】いっしょに「へ国」一利一害に同じ。「J」
【一進一退】いっしょに「へ国」①進んだり退いたりする。
②よくないこと悪くなったこと。
【一敗塗地】いっしょに「へ国」すっかり負けて、二度
と立上ることができない状態をいう。
【一望千里】いっしょに「へ国」ひと目で遠くまで見
わたせること。けしきの広々としたさま。

【一視同仁】いっしょに「へ国」すべてのものを平等に愛す
ること。差別待遇をしないこと。(韓愈・原人)
【一粒万(萬)倍】いっしょに「へ国」(仏)ひとつぶ
のものをまけば、万倍の米になる意で、一つの
善行によつて多くのよい結果が生じる。
【一虚(虚)一実(實)】いっしょに「へ国」現れたり隠
れたり、変化して本体のつかみにくこと。
【一醉(醉)千日】いっしょに「へ国」きつてよい酒
の形容。千日酒。(博物志・雜説)
【一喜一憂】いっしょに「へ国」喜んだり心配したりし
て喜が落ち着かないこと。
【一陽来(來)復】いっしょに「へ国」①易で、陰曆
十一月が復の卦にあたり、十月に陰の気がよ
やく、十一月の冬至に陽の気がはじめて
帰ってくることをいう。冬が過ぎ、春の季節
が始まること。②物事の苦しい時期が過ぎ、
幸運が見えはじめること。③冬至。④新年。
【一裘一葛】いっしょに「へ国」一つの皮ころま
と、一つのす織りのかたびら。貧しいことた
とえ。
【一触(觸)即発(發)】いっしょに「へ国」ちよつとふれ
ても、たちまち爆発しそうなこと。危機がさし
迫つた状態。
【一資半級】いっしょに「へ国」少ばかりの官位。
【一路平安】いっしょに「へ国」道中が無事であるように
意。旅立の人を送るなどのあいさつのこと。
【一蓮託生】いっしょに「へ国」(仏)同じ心で
念仏を唱えれば、死後、共に極楽のはすの花
の上に生まれるという信仰。②仲間が運命を共
にすること。
【一碧万(萬)頃】いっしょに「へ国」湖や海などの水
が青く広々とたなえているさま。(范仲淹・岳
陽樓記)「上下天光」
【一網打尽(盡)】いっしょに「へ国」①ひとあまつ
て魚をすっかり捕えしもう。②多くの罪人や
敵などを一度に捕えしもう。(東軒筆録)
【一暴十寒】いっしょに「へ国」一日暖めても十日冷やせ
ば暖めたことがむだになるように、努力するこ
が少なく怠ることが多いのを戒めたことば。暴

は日にさし暖める、寒は冷やす意。(孟・告
子)「一日暴之、十日寒之、未之有能生
者也」
【一諾千金】いっしょに「へ国」一度引き受けた以上約束
を守つて変えないこと。①季布。
【一瀉千里】いっしょに「へ国」①一度流れ出すと、一
気に千里も走るような水の勢い。②物事をす
るが非常に速いこと。
【一觴一詠】いっしょに「へ国」酒を飲みながら詩
を吟じて楽しむこと。觴は杯。(王羲之・蘭亭
記)
【一騎当(當)千】いっしょに「へ国」ひとりの騎馬武
者が千人の敵を相手にできること。非常に強
いことたえ。②一人当千。
【一頓一笑】いっしょに「へ国」まゆをひそめたり、
笑つたりする。憂えたり、喜んだりすること。(韓
非内儲説)「明主愛一」
【一攫千金】いっしょに「へ国」一べんに大金をも
うけること。ぬれ手で粟。
【一警一白】いっしょに「へ国」小事を戒めて、
それによつて他の多くの大事の戒めとする。
【一舉(舉)一反三】いっしょに「へ国」四すのうち、
一つのすを示せば他の三つを察知する。
才知のすぐれたことたえ。(論・述而)
【一聞一以知十】いっしょに「へ国」一つの事を
聞くと、すぐに十の事を悟る。きわめて賢いこ
とたえ。(論・公冶長)「回也」
【一頭地】いっしょに「へ国」他人よりひときわ目
だてすぐれている。頭の高さだけ抜ける意。
地は助辞。
【一沐三握髮】いっしょに「へ国」一回髪を洗い終
わると、訪問する人があれば三度もこれを
中止して、すぐに髪を握つたまで賢者を迎え
る。賢君が賢士を厚く待遇することたえ。
②一飯三吐哺いっしょに「へ国」吐握。
【一言引(引)衆言】いっしょに「へ国」(仏)ひと
りの愚者が、他の多くの愚者の先に立つて、ま
ちの指導をする事。
【一飯三吐哺】いっしょに「へ国」周公が一度の食
事に三たび口中の食物を吐き出して賢士を迎

えたという故事。(史・魯周公世家)
【一饋而十起】いっしょに「へ国」一度食事する間
に十度も中座すること、夏の禹王が士を迎
え政治に熱心であった故事。(淮南・汜論。
②一饋七起。
【一以知二】いっしょに「へ国」一つのことを聞
くと二のことを悟る才がある。常人よりも一段
と賢いことたえ。(論・公冶長)
【一樹一河】いっしょに「へ国」(仏)現世で同
じ木の陰に休み、同じ川の水を飲んで飲み合う
もの。みな前生からの因縁であること。②
【一簞食一豆羹】いっしょに「へ国」少しばかり
りの食物。簞は食器。豆はたかつき、羹はあつ
も。(孟子)
【一簞食一瓢飲】いっしょに「へ国」少しは
かの飲食食物。簞は竹で造つた丸い食器。瓢
はひき。(論・雍也)「賢哉回也」——在陋
巷、人不堪其憂、回不改其樂——一年の
計画は春の初めに立てるがよい。すべて事は前
もって方針を決め、計画を立てるがよいとい
うこと。(月令・成義)「一日之計在於晨」
【一將(將)功成萬(萬)骨枯】いっしょに「へ国」
ひとりの大將が功名を立てることは、そ
のかに万人の兵卒が命を捨てて働いた結果
である。(曹松・己亥歲時)
【一犬吠形百犬吠聲(聲)】いっしょに「へ国」
ひとりの犬が吠えれば、他の多くの犬が何
かを見れば、他の多くの犬がその声に吠えて、わけも
わからなくなる。ひとりの人が何かをばかしく
いふことをいうと、他の多くの人は、わけもなくそれ
を事実としてうわさする群衆心理。
▽万・一・不・同・一・均・一・画・一・專・一・逐
一・離・一・純・一・唯・一・統・一

2

七

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

【三弦】(絃)さん みすじの糸を張った楽器。



(三弦)

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

【三弦】(絃)さん

品。③(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。④(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑤(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑥(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑦(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑧(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑨(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑩(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑪(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑫(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑬(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑭(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑮(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑯(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑰(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑱(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑲(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。⑳(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。㉑(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。㉒(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。㉓(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。㉔(仏)上品・中品・下品の総称。極

品。㉕(仏)上品・中品・下品の総称。極

をあげて政治にあたる(三つ)。

【三軍】さん ①周の制度で、大諸侯の持つ軍

【三軍】さん ②上軍・中軍・下軍。天子は六軍。一軍

【三軍】さん ③三軍暴。骨をばなす。戦いに敗れて兵士が

【三軍】さん ④三軍可。師を率い、兵を動かす。どれほ

【三軍】さん ⑤三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑥三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑦三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑧三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑨三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑩三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑪三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑫三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑬三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑭三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑮三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑯三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑰三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑱三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑲三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ⑳三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ㉑三軍守。師を守り、部下の気が合

【三軍】さん ㉒三軍守。師を守り、部下の気が合

なる三種の友。(論季氏)。①三友②④。

②風流人が、梅・竹・石をいうことば。

③秦。今、今の陝西省の地。秦の降参し

た大將三子(章邯)が、司馬欣が、董騭が

【三唱】さん ①三度、声をあげてとなえる。

【三壺】さん ②海中にある蓬莱、方丈、瀛州

【三都】さん ③三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ④三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑤三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑥三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑦三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑧三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑨三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑩三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑪三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑫三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑬三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑭三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑮三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑯三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑰三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ⑱三都。三都。三都。三都。三都。

【三都】さん ㉑三都。三都。三都。三都。三都。

